

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型として入居者の住み慣れた地域での生活を安心して暮らせるように事業所独自の理念を作り上げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ間で毎月スタッフ会議時に理念について確認・共有し、理念に基づいた支援が実践できるよう取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに掲載し、家族や見学者に説明している。又、玄関に掲示し訪問者や面会者がいつでも見れるようにしており、地域に発信している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くのスーパーへ買い物に行く時、地域の住民へ挨拶している。他事業者の職員やデイサービス・ケアハウスの利用者が気楽に立ち寄っている。又、他事業所での慰問やレクリエーションに参加し交流できるよう支援している。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	校区文化祭への出展や参加、校区運動会への参加。夏祭りや敬老会などの幼稚園児や地域のボランティアの参加により地元の人々との交流を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の高齢者や見学者又電話での問い合わせを通じて相談に応じている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価・外部評価の意義について理解しており、評価の結果を改善にむけて取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業所からの報告と共に、参加メンバーからの意見や要望について話し合っており、スタッフ会議でスタッフへ報告し、サービスの質の向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村の窓口担当者や生活保護の担当者、地域包括センターの職員と情報交換を行いながら、質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>定期的に勉強会を行い、学ぶ機会を設けている。必要な家族へ情報を提供している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全スタッフで、身体拘束ゼロの介護に向けての勉強会に参加し、認識している。常に情報交換しながら防止に努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながら資格取得するためのトレーニングする事を強く勧めている。定期的に研修に参加している。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	研修や勉強会を通じ、法人内外の職員との交流や活動を通じてサービスの質の向上させている取り組みをしている。同一法人のグループホームとは、随時情報交換を行い、質の向上に努めている。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	何でも話し合える環境作りを行っている。職員間で懇親会を設けたり、個々にストレス解消のための工夫を行っている。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	運営者は職員の勤務状況を把握しておく。又、資格取得や研修会などの参加を勧め、各自が向上心を持って働けるように努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入所前の面談で、遠慮なくなんでも話せる環境を作り、本人の思いを受け止め、できるだけ、信頼関係が築けるように努めている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入所前面談より出来るだけ何でも話せる環境作りに努め、家族の思いや悩みを受け止め、解消にむけて支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にそのときに必要な支援を見極め、他のサービス利用への検討、依頼、手続きの代行などを行いながら、対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家族や本人で見学・説明を受け、安心して入所できるように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事などを一緒に行い、利用者の経験を学びながら、支え合い、家族のように喜怒哀楽を共に過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を報告しながら、定期的に連絡を取り、情報交換しながら、一緒に本人を支える関係作りを築くよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の今までの状況や思いを見極めながら、出来るだけ一緒に時間が過ごせるように行事への参加や外出などを勧め、より良い関係が築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人が訪問しやすいような環境作りに努めている。又、以前利用していたスーパーでの買い物支援に努めている。手紙や電話連絡など、家族と情報交換しながら、本人の意志を尊重し自由に出来るよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の趣向や生活歴などの背景を考慮し、座る場所など提供している。自由に好きな場所で談話や家事が出来るよう、又、孤立する事がないようスタッフが調整役に勤めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院の為の退所の場合は、定期的に面会し状態把握に努め、利用者・家族・主治医との連携を継続し、必要時情報交換を行っている。家族の必要な時は悩み・相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や言動より、思いに寄り添い、出来るだけ、本人の意向を把握するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント、その後の関わりで得た情報を本人・家族と確認しながらスタッフ間で共有し、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の状態を個別に観察しながら、出来る事と有する力などの現状を総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から定期的に要望や意見を聞き、必要時は主治医など関係者からの意見を参考に、スタッフと定期的又日常的に情報交換しながら、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新前に必ず見直しを行っている。必要時は、状態に応じ、本人・家族・主治医の意見を参考し、スタッフ間で検討し現状に応じた介護計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、毎日の生活状態や食事・健康・排泄などの身体状況などを記録し、引き継ぎ時に報告すると共に、毎月のスタッフ会議で確認し合い、把握に努め、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や理髪など、本人や家族の状況や要望に応じ、出来る限り応じられるように支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で過ごせるように、防災訓練や運営推進会議や各行事などを通じ、情報交換し、協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状態や希望に応じ、地域の訪問理髪サービスを利用している。又、必要時、ヘルパー事業所や福祉用具担当者への手続きの代行支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時地域包括支援センターへ依頼している。又、待機者状況など情報交換に努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医となっている。入所時に基本受診は家族支援である事の説明・同意を得ているが、不可能な方のヘルパー支援への手続きの代行や出来る範囲でのスタッフ支援を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーに十分注意し声かけや対応を している。スタッフ会議時に話し合い、確認し職員の意識向 上に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ、利用者が自分の思いを表出できるよう、又、選 べるような機会や場面を提供している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは、出来ているが、その日の状態や希望を出来 るだけ取り入れて個別性のある支援ができるように努めてい る。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧品を希望者は持参している。自分で出来ない方は本人 の趣向に応じ、毎日の衣類を一緒に選んだり、希望に応じ髪 染めを行っている。理美容は訪問サービス又は同行し、希望 に添うよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立に取り入れている。毎日、楽しみながら 能力に応じた調理や盛り付け、片付けを行っている。利用者 と同じテーブルで、静かな曲を流し、見守りながら一緒に食 事を摂っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日定期的(10時・15時)におやつと飲み物を提供している が、本人の希望時に好みのおやつや飲み物を楽しめるよう に支援している。又、お茶などいつでも注げるようにしてい る。時に手作りのお菓子や季節のおやつを一緒に作り、楽し めるように支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、利用者の排泄パターンに応じたトイレ案内をしている。食材の工夫やマッサージ、体操などの工夫を行い、最終的に薬で調整するようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	殆どの利用者が朝風呂(温泉)を楽しみにしており、ゆっくり入れるように支援している。本人の希望を出来るだけ尊重するように努めている。時折、入浴剤やハーブなどの香りを楽しめるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の状態や希望に応じ空調を整え、いつでも好きな時間に気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。リビングの座敷でもいつでも休息できるような環境を作っている。不眠の利用者は、日中できるだけ活動を促し、状況に応じ眠剤の処方を見直しと検討している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や生活歴を参考に家事やレクの提供を行っている。得意な分野への提供を行い、楽しみや自信につながる様支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の力量や希望に応じて金銭管理をしている。外出時は、能力に応じ、支払い時など見守るよう支援している。正月の参拝時は少額を使用してもらい、満足感が得られるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じて、晴天時は毎日散歩を計画し、洗濯物干し取り入れ、裏庭の畑仕事など毎日外に出るようしている。出来る範囲で利用者の希望に応じられるよう努めている。出来ない場合は、家族へ依頼し希望に添えるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	可能な限り、利用者の希望を聞きながら、毎月の苑外レクレーションに計画している。お花見、水族館見学、夏祭り、運動会参加、外食など家族と共に過ごす機会をつくり、支援している。お墓参りへの希望者に対し、家族へ連絡し希望に添うことが出来た。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時いつでも電話連絡できるようにしている。又、家族が他施設に入所している場合、連携を図り、連絡できるように支援している。毎年、年賀状を家族へ送っている。又、個別に手紙のやり取りを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設けておらず、いつでも都合が良い時に訪問できるようにしている。面会時は、居室でゆったりと居心地良く過ごせるようお茶やいすなどを提供している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての勉強会や資料を参考にスタッフ間で身体拘束をしないケアに対し、統一し、内容について熟知している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が鍵をかける事の弊害を理解している。利用者のその日の状態に応じ、声かけの工夫を行い、共に散歩に出かけたりしている。出来るだけ、安全が確保できる時間や箇所において開放するように努めている。建物の周りの環境により事故防止のため、入所時に家族・本人へ状況を説明し同意を得ている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ間で引継ぎ時にその日の認知状態について細かく情報交換し共有しながら支援している。日中は、スタッフ間でプライバシーに配慮しながらお互いに声かけし、夜間は数時間ごとに見回り、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一律になくすのではなく、嚴重な管理が必要な物や利用者が使用する時に利用者の状態に応じ、支援し、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測した危険を防ぐ為の支援を行っている。マニュアルを作成し、全員に配布すると共に見える場所に掲示し非常時に活用できるようにしている。ヒヤリハットや事故報告などスタッフ会議で定期的に報告し、再発防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が緊急時の対応や蘇生法などの普通救命の修了書をもっている。定期的に勉強会を行い、急変時の対応が出来るように努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、利用者と共に防災訓練を行っている。施設内では、新スタッフが入る毎に訓練を行っている。地元の消防隊の訓練により避難経路の確保や消火器の使い方などや情報交換を行っている。日頃より法人内の職員の協力を依頼している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の一人ひとりについて考えられるリスクについて家族と話し合い、安全に過ごせる為、取り組みなどの対応策を説明し、理解が得られるように努めている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフ全員が日頃の利用者の状態を把握しており、異常時はバイタルサインや記録を行い、訪看や管理者へ報告し、スタッフ間で情報を共有し、家族へ状態の説明し受診支援を依頼している。場合により受診支援を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬の説明書を参考に内服薬一覧表を作成し、確認できるようにしている。スタッフ会議時に確認し、共有している。服薬時は三回確認し、手渡し確認まで行っている。内容の変更時は引継ぎノートに記録しスタッフ間で確実に共有できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄の状態を記録しており、個別に応じて食材の工夫(繊維物、乳製品、水分など)しながらおやつや食事に取り入れている。又、体操や散歩など身体の活動を通して自然排便できるように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについて勉強会を実施し必要性を熟知している。毎食後の利用者の能力に応じた支援を徹底している。又夜間は義歯洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立内容を事前に栄養士が確認し、バランスの摂れた栄養状態であるか、アドバイスを受けている。全利用者の食事摂取量の把握と記録水分量は必要者のみを行っている。飲み込みの悪い利用者は食材の形態を工夫しており、適時、栄養士や看護師の指導を受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを作成し、定期的にスタッフへ伝達しており、早期発見、早期治療に努めている。面会時など、玄関に手指の洗浄器を設置し、流行時はマスクの利用など協力を依頼している。インフルエンザは家族の同意を得て、利用者・スタッフ全員予防接種を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	スタッフの手洗いの励行、食前の手指消毒剤を使用している。又、夜間の調理器具の消毒、毎日注文先より新鮮な食材の調達、賞味期限についてもスタッフ間で情報交換しながら徹底している。又衛生を保つようにふきん・まな板の漂白、消毒液、乾燥機を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には花や植木を置き、玄関には利用者の生けた花や作品が展示しており、親しみやすい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や絵画を飾り、毎月利用者で作成する季節の作品を各居室の入り口に掲示している。利用者の好みの曲を適時流し、心が安らぐ快適な環境の中で過ごしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者本意で自由に日々を過ごしている。居室内や好きなリビングの場所(座敷・ソファなど)でゆっくり新聞や読書をされたり、気の合った利用者同士お茶や談話を楽しめる空間を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談しながら危なくない物で使い慣れた物や必要な家具を持参して頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全居室やリビングは毎朝換気を行うとともに定期的に空調の調整を行っており、外気温との大きな差がないように努めている。利用者の状態やその日の状況により加湿器や消臭剤(時にアロマやお香)などで対応し快適な環境で生活が送れるようにして支援している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室・ホールの段差解消、居室の出入り箇所・トイレ・浴室に手すりの設置、浴槽や洗い場に滑り止めマット、シャワー椅子の設置。身体状況に応じ、車椅子、手押し車、歩行器、杖使用などにより安全面の確保と自立した生活が送れるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の認知状態について、常にスタッフ間で情報交換しその日の状態に応じ、支援方法を工夫しながら自信をもって日々を過ごせるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲には花や植木を置き、水撒きや草取りを日常的に行い楽しんでいる。裏庭にはベンチを置き、他者との交流や散歩などの休憩に利用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・職員自ら入りたい、又は自分の家族や友人に自信をもって勧めたいグループホームを目指して職員一同取り組んでいます。
- ・利用者の想い出来るだけ添うように支援し、職員と利用者が家族のように喜怒哀楽を分かち合い、身の回りの出来る家事をスタッフと共に行いながら、温泉に入り、裏庭の畑で収穫した季節の野菜を調理しながら楽しくゆったりした日々を過ごしています。